

2階 ホーム名：グループホームグローブハウス						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理日誌の裏表紙とスタッフの名札、グループホーム玄関口に掲示し 意識出来る様にしている。	事業所として地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を設定している。理念の実践は、管理者と計画作成担当者を中心に日々のサービス提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているのか確認されている。	今後も事業所で働く職員一人ひとりが、事業所の理念を理解し、日々、利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを大切にケアを実践されていられることに期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	美化活動、公民館でのサロン、小学生との交流会等に参加し地域の方々に対して顔の見える関係でつながっている。	地域行事への参加等の交流を通じて、利用者が地域社会とつながりながら当たり前の暮らしを続けられるよう取り組んでおられる。特に高校生による演奏会や小学生との交流等世代を超えた交流にも力を入れている。	継続して地域とともに暮らす一員として、地域で必要とされる活動や役割を担い、地域との関係を深めていかれることに期待したい。又、世代を超えた交流の拡充にも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域参加、地域交流の中で認知症の人の理解を促している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3月曜に開催し民生委員、地域包括、家族様、他施設の管理者、当該入居者の方々に参加いただき意見や助言をサービスに活かしている。	地域の方、利用者、家族、地域包括、他グループホームの方等が参加され、事業所からの状況報告とともに参加者からも質問、意見、要望等があり、双方向的な会議が行われている。	次の開催まで時間が空くので、議事録には、会議状況報告の議事以外に決定事項、質疑応答、宿題等に分類整理し、次の会議では前回の議事録確認から開始されてはどうか。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	基幹型包括を中心としたネットワーク会議に参加し顔の見える関係を築いている。	地域の地域包括支援センターと緊密に連携しながら、必要に応じて、市とも良好な協力関係が築けている。又、地域のグループホーム事業所連絡会を通じて、市との連携を深めている。	運営推進会議にも市の担当者に出席して頂き、認知症ケアにおける事業所での様々な取り組みを直接、紹介されてはどうか。会議時間は長くなるが、実際に見てもらふことにより、言葉や文字では表わせないことが伝わるのではないかとと思われる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関やエレベーター、フロア扉等 施錠はせずそれを含めての身体拘束の意味を理解いただいている。	家族、利用者同意の上、事業者内を自由に行き来できるよう玄関も含めて、施錠はされていない。事故防止のため、必要に応じて、センサーマットは使用されている。	継続して、家族や利用者に事業所の身体拘束に対する考え方を理解して頂きながら、身体拘束を含めた行動に対する制限を行わないケアに取り組んでいかれることに期待したい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内、施設外研修を実施、参加し 虐待防止法の資料を事務所に置き いつでも閲覧できるようにしてる。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>司法書士の方に制度を学びながら対象者がおられたらアドバイスいただいている。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、口頭 書面で説明行いご理解のうえ サインいただいている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>1年に1回家族会を設け 毎月の請求書の中にお便りを同封しご意見欄に記載いただいている。面会時などにもお声かけしている。</p>	<p>家族とのコミュニケーションを大切に毎月のホーム便りで利用者の様子を伝え、年1回の家族会開催での事業所との交流も大切にしながら、SNSを活用して、タイムリーに家族と連携をとられている。</p>	<p>継続して、家族とのコミュニケーションを大切にされる中で、家族同士のつながりを深めることも検討されてはどうか。同じ悩みを持たれている家族もおられると思われる。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回のフロアー会議を行い 個々には年2回 ヒヤリングでのききとりし意見や提案に耳をかたむけている。</p>	<p>管理者と計画作成担当者は、職員からの日々の利用者との関わりの中での気づきや考え、提案を聞き、運営に反映されている。又、管理者と計画担当者は、職員とともに運営の改善に取り組んでいる。</p>	<p>変化する利用者や家族の状況に必要な支援を迅速に提供するためには、職員からの意見が重要になると思われるので、これからも管理者、計画作成担当者、職員とともに事業所運営の改善に取り組まれていかれることに期待したい。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>月1回の役員会議で職員の勤務実態や個別での内容を報告し評価すべき点は報酬アップなど向上心をもてるように工夫している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に内、外の研修や勉強会に参加できる機会を設けスキルアップできるように進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>西区高齢者関係会議に参加し多職種での連携を意識し、月1回のグループホーム連絡会では研修や勉強会などで質の向上をはかっている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族情報などを元に本人さんの困っていること、要望していることなどききだし 本人さんには会話の中できみ取るようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>見学时や契約時に家族の方からできる限りの情報収集し要望をきけるように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず何がその方にとって今、必要なことかを見極め対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>残存能力を活かし役割をもった日常生活を過ごしてもらえるように支援している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の方には 本人さんの小さな変化でも口頭や文書、メール等で報告するようにし、意向をきくようにしている。</p>		
20	<p>8</p> <p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの喫茶店や美容室等入居前からの関係性を保てるように支援している。</p>	<p>家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近隣への買い物、外食、散歩等を通じて、地域の方と交流を行い、地域との関係性も維持継続できるよう日頃のかかわりの中で様々な工夫をされるいる。</p>	<p>入居するとこれまでの関係性が途切れがちになりやすいと思われるので、友人、知人のことや馴染みお店、場所等について日常的な会話を通じて思い出してもらえるように努めていかれることにも期待をしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>座る場所の配慮やスタッフが仲介に入るなど利用者同士が関われる環境づくりに努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても継続的に支援できる体制はとっている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から意向や思いをくみとるようにしている。	管理者と計画作成担当者、職員は、利用者が望む暮らしや何をしたいのか等を理解するために日々のケアの中で利用者の声に常に耳を傾け、その把握に努めている。	把握した利用者の意向や思いの記録漏れや正確性を高めるため、職員全員が、タブレット端末による記録入力を検討されてはどうか。職員間の引継ぎ時、連絡事項の正確性も高まると思われる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族や介護サービスの関係の方等 できるだけ多くの方からの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の10時のミーティング内で本日の予定を確認しあい入居者の意向の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人に対し、スタッフ一人が担当しケアマネを交え月々介護計画を見直ししている。	本人の視点にたってその人らしい暮らしを続けられるために、必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成されている。計画見直しは、利用者ごとの主担当者が利用者代わりにその思いや意向を把握できるよう担当されている。	継続して、利用者の状態の変化や期間に捉われず、又、利用者や家族等からの新たな要望や意向がないような場合でも、利用者との日頃のかかわりの中での思いや意向をくみとり、必要に応じた介護計画の見直しに取り組んでいかれることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活は個別ケース記録に記載し提案連絡等は口頭、書面で申し送るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの状態や医療保険からのサービスが必要ならば積極的にとりいれ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の散歩などで地域の方と顔見知りになりながら資源を活かせる支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は隔週、歯科は毎週の往診があり 健康、口腔 チェックの支援をしている。	利用者は、事業所のかかりつけ医の内科、歯科の往診を受けている。かかりつけ医と事業所間では、看護師が確認のうえ、医療連携ノートを活用し、利用者の受診状況等が共有されている。又、かかりつけ医以外の受診は、家族や利用者の希望に応じて受診できる。	医療連携ノートの記録漏れや精度を高めるため、職員全員が、タブレット端末による記録入力を検討されてはどうか。記録入力されたデータは、かかりつけ医ともデータ伝送によるタイムリーな連携も可能となり、受診時の効率化にもつながると思われる。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師は当該職員として週3回勤務し医療ノートを通じて介護職員とも情報共有おこなっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>近隣の医療関係者の方とも日頃から連携し 情報交換行なっている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取り指針、重度化対応の説明し終末期には都度意向の確認をし 書面に残している。</p>	<p>終末期に対する事業所としての看取り方針と重度化に対する対応について、利用者と家族に対し、入居時に説明されている。又、利用者と家族の意向は、書面に残し、事業所はその意向にそった対応ができるよう努めている。又、必要に応じた意向の見直しも行われている。</p>	<p>重度化や終末期の対応では、今後の対応に対する利用者や家族を含めた関係者全員との方針の合意、その後の状況の変化に応じた繰り返しの対応の協議が必要になると思われるが、利用者や家族の揺れ動く思いに寄り添いながら、利用者や家族の希望ができるだけ叶うよう対応されていかれることに期待したい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職者には心肺蘇生法、AED使用法などの救命講習を受講いただいている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>西区全体での津波避難訓練があり自立している入居者を中心に参加している。</p>	<p>想定される災害に対し、行政や消防署から情報を収集しながら最適な対策を検討し、避難訓練で実践されている。又、事業所単独ではなく、地域での合同避難訓練にも参加され、地域と連携した避難対策にも取り組まれている。</p>	<p>災害の発生は、予測できなく、特に夜間は、職員だけの避難誘導に限界となる場合もあると思われるので、地域住民とも緊密に連携した避難対策を取れるよう訓練を充実させていかれることに期待したい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなどにも人格尊重意識し人生の先輩という思いを常にもちながら接している。	介助が必要な時は、利用者の気持ちを大切に考えながらさりげない言葉かけやケアに努めている。又、年長の方には、敬意を払い、利用者の尊厳を大切にされている。	人格の尊重とプライバシーの確保を維持していくことは難しいこともあると思われるが、職員間での日頃のケアの中で、常に具体的に確認しあうことを大切にしてながらケアに努めていかれることに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から意向や思いをくみ取り 自己決定できる配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先の介護をケアプランで作成し定期的に会議時などで確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者自身で選んでいただき季節感のあるおしゃれができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、味付けなど役割をもつていただきできることを強調しない声かけで支援している。	隣接のデイサービスによる手作り食が提供されている。利用者は、盛り付けや配膳、後片付け等、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にすることを大切にされている。	今後も盛り付け、配膳、後片付けなどを、利用者個々の力を活かしながら職員と利用者と一緒にやる機会を通じて、利用者一人ひとりが食事を楽しんでもらえるよう努めていかれることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	量、内容はその方に合わせた支援をしながら調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には見守り、その他の方には介助しながら援助し 週1回の歯科往診にてアドバイスいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	表を作成しトイレ誘導などの時間やタイミングを見計らい失禁を減らす支援を行っている	トイレでの排泄の維持や失禁防止のために、行きたいときにトイレに行くことができるよう利用者ごとの排出パターン表を作成し、利用者のサインを見落さないよう排出介助に努めている。又、失禁防止対策の1つとして、骨盤底筋体操等の運動にも取り組まれている。	今後も継続して、排泄の自立に向けて、運動や排泄介助支援等様々な取り組みをされていかれることに期待したい。又、高齢者の健康に必要と言われている十分な水分補給にも関係すると思われるので、健康面の維持と合わせて取り組んでいかれることにも期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、食生活、水分の工夫で便秘にならないよう対策おこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の方と準備から一緒に行いADLに合わせた介助に努めている。	利用者の希望に合わせて、週2～3回の入浴ができている。入浴介助は、利用者のADLに合わせた入浴介助が行われている。又、機械浴が必要な利用者は、隣接のデイサービスで機械浴を利用することができる。	今後も継続して、利用者の状態や希望にそった入浴の調整を行いながら、入浴の場を利用者の思いや意向を確認できるコミュニケーションの場としても活用されていかれることに期待したい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間不眠な方には不安があれば傾聴し安心いただくまで支援している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の処方せんを医療ノートにファイルし看護師との連携に努めている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前の生活歴とと現在のご本人の意向をききながら できることの役割をもつていただき支援している</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々のお散歩以外に個別に毎月外出計画を立て 本人さんの希望を叶えられる支援をしている。</p>	<p>利用者が事業所の中だけで過ごさずに日常的に外出できるように利用者の希望に応じて、近隣への買い物、食事、散歩を楽しんでもらえるよう努めている。又、外出イベントにも力をいれており、家族にも参加を呼びかけ、楽しんでもらえるよう努めている。</p>	<p>外出時の記録をホーム便りや、共有空間や利用者の居室に貼り出し、利用者の楽しい思い出を残すことにも力を入れている。今後の継続して取り組まれる中で、SNSをさらに活用して動画等で思い出を記録して行かれることにも期待したい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理できる方や持参していないと不安になる方には所持いただき外出時には付き添いお買い物支援をしている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>スタッフが仲介に入りやりとりがスムーズになるように支援している。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用フロア内には、カレンダーや展示物、写真、書道など季節に応じた飾りつけを意識し話し話の話題作りができるよう心がけている</p>	<p>明るく広く、清潔な共有空間で、利用者は居心地よく過ごすことができるよう利用者が暮らしとは無縁の飾りつけや装飾品を置かず、季節感を感じることができる家庭的な雰囲気を醸し出す空間づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の感性や利用者の思いも大切にしながら、家族や地域の方等からの気づきや感想も共有空間のづくりに取り入れていかれてはどうか。例えば、運営推進会議で意見を出してもらおう等。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>椅子や机の配置を考慮しながら和室活用も含め居場所作りの工夫している</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前から使用していた私物を持参いただき以前の環境とかわりないことよって安心して過ごしていただける。</p>	<p>各居室は、自宅との違いによる不安等を最小にするために、居心地よく過ごしてもらえるよう思い出の品等が置かれている。又、布団の天日干しやシーツの定期的交換等衛生面の配慮にも力を入れている。</p>	<p>今後も継続して、他の利用者との共同生活の中で、居室の存在意義は大きい。プライバシーが確保され、安心して過ごせる居室づくりに取り組んでいきたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は施錠せず自由に行きできるようにしているがセンサーなどで見守り確認はできるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない